

□ 随 想 □

# 人の出発

岡部 伊都子  
え・津高 和一



久しぶりに、神戸の港を歩く機会があった。神戸に住んでいた十年間に、仕事や、散策や、他地方の客人を案内してなど、よく歩いた岸壁に、潮風にふかれてたつことは、たのしかった。たいそう寒い日で、人の出発を見送りにきたのだけれど船の都合で出帆はその翌日ということになっていった。貨物船、貨客船、そのうちにはまた大型の観光船の出入りで賑わうことだろう。

出航ののびたこともしらないで、見送りに集まった人びとと一緒に、遅い食事をとりにキングス・アームズへはいった。ここは、いかにも神戸らしい店で、いつか、北海道からのお人を案内して、たいそうよろこばれたことがある。飛行機の時間のゆるす限り、この店の写真をとって帰り、それから数年は、五月になるとすずらんがおくられてきたものだ。

「こんなお店が札幌にもほしい」といっていらしたのが、札幌にはいって見たことはない。いつか、店の中にぎっしりの英国の船員で、まるで外国映画のシーンを見るようだったが、いつも、ほとんど相客のいない閑散さが気に入っている。ちつともかわらない。店員さんたちの、愛想がいいのか悪いのかわからない雰囲気も、以前のままで。昼下りの店では、いちどに十人余りの客も、くつろいで休め、内輪の話も遠慮なしにできる。繁華街のレストランのように、追いたてられはしないし、折からの泣顔を、見られないですむのも、ありがたい安らぎだった。

何も不幸なわけではないし、そんなに不安なわけでもない。だのに、人に別れる、人の出発を見送るといふことは、こんなに涙のあふれるものかと思う。別れて、未知の世界に生きようとする若い女性の、やはり前途は多難であろう。いじらしさもある。頼もしさもある。よろこびもある。期待もある。人間は人間を、どう助けようとしても助けられない、きびしい線がある。自分で、自分と闘い、自分にふりかかってくる運命や困難を通過していつてもらわなくては、はたの者は、どうすることもできはしない。自分は怠けていてむくわれぬことを簡単に他人のせいにする逆うらみの人生は、なんと貧しいことだろう。逆うらみは自分に対して誠実な、卑劣な生きかたなのだ。

出発する瞬間は、もう送る時間をうみだせなかった。私は仕事にでかけた。集まることのできる人たちは再び港に集まって平安を祈り、祝福を振ったことだろう。世界の各地に寄港して、そこで

のいろいろな生活をみることは、何よりの勉強だ。人間であることのつらさを、身にしてみてわきまえることもできるだろう。また、人間であるよろこびに、胸ふくらむこともあるだろう。小さな、祖国の内部にも、存在している数々の偏見や矛盾や不幸があらためて大きくみえてくることだろう。母国での生活では、想像もなかったようなことにてあつておどろきを味わうことも多いだろう。それを、どのような心で、どのような方法でうけとめ、通ってゆくか、が、その人生を方向づけるその後、アフリカでの、黒人の労働状態や生活、差別の実状などをかいまみて「同情とかいったものではなく、どうしてなの、どうしてなのと泣いてしまいました」と書いてきた彼女のその涙は当然流すべき涙である。そういう質の、怒りの涙は、流さない方がおかしい。個の力の小ささと、また人間同士のあたたかさを、しみじみと味わう異国での生活が、魂の美しき成長の役にたてばよいのだけれども。

「どこへ寄っても、日本ほど物質の豊かな、贅沢な国はない。まったく、物にあふれた日本という気がします」とのこと。その物質に恵まれていくる日本に、刻々、経済不安はつってゆく。人種問題以前である。日本の国内の差別は、底ぶかくつづいている。世界に通じる港神戸に集まる国々の船。国内にも世界にも、まだまだ考えなければならぬことがある。

△随筆家△

□ 随 想 □

# 工学的な都市まち || K O B E

新野 幸次郎  
え・津高 和一



学生時代の冬の日のことである。一緒に散歩していた哲学の教授が、「こんなにあけっぱなしな都市まちでは、散歩しても物を考えることができない。あまりにもぎらぎらした明るさだ」とつぶやかれた。わたしは、それから二〇年以上、ずっと神戸に住んでいる。しかし、このつぶやきは妙にわたしの耳から離れない。その教授は京都で哲学を研究された方であった。

その神戸の輝きは、そのごも消えないどころかかえってその度合をましている。かつては緑に包まれた山々が、新しい手法できり拓かれ、赤土のうえにはきらびやかな家並が映えている。神戸では古い建物であった異人館もその姿を消し、それに代って、派手な色どりの片仮名のホテルが立並ぶ。海は海で日毎に埋立てられており、煙突が青い松林の代わりに立つという調子である。これはどこの都市まちにもみられる再開発の姿にすぎないと

いえるかもしれない。しかし、神戸という都市まちには、もともと、古いものが少ないうえに、山と海との間が狭く、しかも、少し山手に登ってゆくとすぐさま全市が眼下に拡がるから、その変化もひととき目立つのである。

わたしが、数年前ケムブリッジにいたころ、ある人から神戸の絵葉書をうけとって、外国のある港みなと都市まちを連想したことがあった。「大和の国」を連想できるようなものがカラーの遠景写真からは何一つうかがえなかったからである。それはわたしを育んだ日本とは異質のもののような気がしたのである。とくに最近のアメリカナイズは著しく、その中で毎日過ごしていても、もはや「神戸」という気はしない。せいぜいのところ、K O B E である。

とはいえ、わたしは決して近頃の神戸の変りやうにけちをつけているのではない。神戸がK O B



Eにかわるのは、神戸のためによいことだと思っ  
ている。それどころか、遠い未来のために、大き  
なヴィジョンをもって、神戸の工学的な改造が行  
われていること、しかも、その手法が新しく、全  
日本の注目を集めるほどのものであることには、  
心からHatofitしたいと思っている。「酒はうま  
いし、ねえちゃんはきれいなK O B Eはこうし  
ていま急速に衣替えをしているのである。

しかし、この神戸にも悩みがないわけではな  
い。神戸の衣替えは急速に行われているのに、神  
戸の経済は一向ぱっとしないのである。この「神  
戸っ子」の昨年十二月号にも、小林芳夫さんが神  
戸証券取引所の解散についてかいておられたが、  
神戸の工業出荷額の伸びも、商業販売額の伸びも  
三〇年代以降、六大都市中最低のままである。ち  
ょうど一昔ほどまえに、神戸経済の地盤沈下とか  
斜陽とかいふことがいわれ、この神戸経済の相対  
的な地位の低下に世人の注目が集まっていた。そ  
れを契機に、三四年に神戸経済振興対策調査会が  
つくられ、かなり体系的な吟味を加えられた。そ  
れはわたし個人にとってもかなり思い出になる仕  
事の一つであった。しかし、それ以後も事態は根  
本的に変化していない。

その理由はいろいろあって、とても一口に云え  
るようなものではない。ただ、阿部知二さんのこ  
とばは、その一つの問題を考えるさい印象的であ  
る。氏はかつてわたしに、「神戸はあくまで明治  
維新後の新開地であって、他所のものの都市であ  
る。だが、それだけに、全く開放的で、近代的な  
人間関係をもっている」といわれたことがある。

底ぬけに開放的なのは、自然環境と工学的な都市  
造りだけではないのである。そこに住む人と人と  
の関係さえ開放的なわけだ。しかも、大切なこと  
は、その環境づくりは、科学の力で容易に体系的  
に組織できるのに、ばらばらで開放的な人間関係  
をまとめあげ、それを一つの力にするのはきわめ  
て困難であるということである。

わたしは、神戸経済の伸びを、オリンピックの  
競争のように単純に考えているのではない。何が  
何でも勝たねばならぬ式の地域開発の非合理性に  
は、むしろ嫌気がさしている。その点、むしろ、  
神戸の経済人の近代性に内心敬意さえもっている。  
しかし、工学的な都市造りがいつも直面する  
ものは、それが人間の心や人間の営みを時として  
いれもの抜きで冷たい数式や図式にかえてしまわ  
なければならないという悩みである。この悩みを和  
らげ、工学的な都市に魂をいれ、しかも、神戸経  
済の発展を支えてくれるものは、開放的で近代的  
な人間関係のなかで、それを一つの力にまとめあ  
げるような経済人や市民の登場である。そのとき  
K O B Eは、たんなる工学的な都市から、人間の  
な生活都市になるのではないかとも思っている。  
わたしは幸か不幸か哲学者ではない。明るいK  
O B Eという都市がこよなく好きである。しかし  
経済学を勉強しているわたしの眼には、うわべの  
明るさよりも、そこで働いている人達の暗さが  
気になって仕方がないときがある。

(神戸大学教授)

□ 随 想 □

# 私の神戸一中時代

山田 稔

私の生まれは小倉だが、オヤジの仕事の関係で五才の時から、ずっと芦屋に住んでいる。小学校は芦屋の精道小学校だったが、中学は神戸一中に通った。だから、その五年間が、いわば私と神戸とのつながりということになる。五年間といえば短かいようだが、しかし、何といっても、中学時代というのは、人生の一番楽しい時期だし、おもしろい思い出の数々に色彩られた、私の青春時代の大切な一ページとなっている。

私の神戸一中時代というのは、入学が昭和九年卒業が昭和十四年だから、時代的には、そろそろ支那事変のおころうとしていた時であったが、またそうでなくとも、戦前は、軟弱なことは伝統的に禁止されていた。例えば、映画や宝塚にいつでも停学処分になったりで、とにかく、きびしく、うるさい時代だった。私の記憶では、カーキ色の服を着て、皮靴の編上げにゲートルという姿で、授業をうけていた。また、あの頃は、鉄砲かっいで生田神社や楠公さんにお詣り行軍ばかりやってい

たので、神戸の町といっても、今のようには「異国情緒」などというものは、およそ程遠い感じだったと思う。

中学五年の時、校舎が青谷に移り、はじめて、授業中にゲートルをはずし、白い運動靴をはいたものだ。近くに松蔭高女があったので、学校の帰りには、わざわざまわり道をして、そこを通ったりしていた。もっとも人によっては、もっと勇敢にやっていた人もあるようだが……。それから、当時は、白い風呂敷だったが、これも当時でいう軟派あるいは、モダン・ボーイという部類に属するの、か、みな、それぞれにうまく工夫して使っていた。真面目な人は、大きな風呂敷包みをかかえているが、ちょっとエエカッコしたがる人は、なるべく本を少なくして、風呂敷の端をズツと長くし、横からたらししていた。ゲートルも、神戸二中が白で、一中は黄色だったが、これを洗濯して、なるべく白っぽくし、短かく巻いて、昔のゴルフズボンみたいな型にしていた。その結び目も、必



ず横にもっていき、少したらしたりなどして、なかなか取っていたものだ。私の中学時代というのは、こんな風にして、多少の抵抗はしていたがそれ以外は、今にして思えば、実に真面目なものだった。

運動もなかなか盛んで、野球は、春と夏の甲子園大会、ラグビーは神戸一中、二中の定期対抗戦が一番の華だった。よく応援に行ったものだ。私は、小学校も野球の強いところで、京都方面に遠征試合にいったこともある。神戸一中に入ってから、二年の頃、だんだん成績が下がるものだから、オフクロが気をまわしたのか、校長先生から「出社に及ばず」ではなく、「練習に及ばず」といい渡されたことがある。池田太助という先生だったが、この人は、後に甲南の校長になった人で神戸一中の時から、何となく偉い人だなという印象をもっていたが、事実そうだった。初代の黒崎校長の遺志を継いで、非常に寛大な教育をし、その当時よくいっておられた言葉に、「大バカモノになれ！」というのがある。「今は分らないかもしれないが、将来分るだろう。これを心がけておけ！」と。なかなか味のある言葉で、今になってやっと意味が分ってきたような気がする。しかしなかなか、なれない。

中学二年の夏休みに、野本と現在シオノギ製菓の研究所の部長をしている永田と私の三人で、無銭旅行をしたのも忘れられない。何ということもなく、やろうじゃないかということになり、西宮を出発して、一週間ほどかかって、天の橋立に到着。重い荷物をかっついて、ほこりだらけの道を

歩いたのだから、とにかく暑かった。最初の日などは、逆瀬川の中で、日が暮れてしまい、道に迷うし、今にも泣き出しそうになったり、それでも学校の講堂のうしろやお寺に泊めてもらったり、教室で寝ていて、ムカデに頭の上をはいまわられて、とびおきたりしながら、やっとの思いで、目的地に着いたのはいいが、さあ、テントを張ろうと思ったら、いきなり雨がジャンジャン降ってきた。もう、あの時は、ほうほうの態で、汽車に乗って帰ってきたものだが、今から思い返せば、何とも愉快である。

最近の神戸とのつながりといっても、私自身の仕事が大阪なので、どうしても神戸に行かなければならないということはあまりない。だから、昼間より、夜のつながりの方が多く、三宮、花隈あたりをウロついている次第である。

しかしながら、昔の学校友達というものは、いつまでたっても、なつかしくていいものだ。成績のよかったもの、悪かったもの、ちょっと不良じみていたもの、変っていたものなど、今でもおもしろく、つきあっている。今までは同級生だけにしかつきあわなかったのが、この頃では、先輩、後輩とも、仕事や何やかやで関係ができ、つきあう機会が多くなった。やはり、同窓生交歓ということになると、なつかしい。顔は知らなくても、同じ一中だということだけで、一つの特徴な雰囲気の中に育ったという、ある種の共感が生まれるできれば、お互に助け合いたいという気持ちにもなる。同窓生とは不思議なものだ。



上月 晃さんも  
宝塚歌劇団  
芸夢を  
ごひいきです

デザイナー  
西田武男のオリジナルブレタ  
ポルテのコーナーを新設しました



コスチュームアクセサリーの店  
EIMU 芸 げいむ 夢

神戸店/トアロード (33) 2293-8643  
大阪店/心斎橋ロビー (211) 5153-1044  
ブレイモンド・エッチャン (211) 8503  
さんちか店/レディスタウン (39) 2855  
京都店/藤井大丸1F (231) 8181  
東京店/東急日本橋1F (211) 0511

ご贈答に

ゴーフル

お菓子づくり70年  
丹精こめてつくりあげた  
味覚の逸品!

お子さまからお年寄まで  
ご家族みんなによろこばれる  
風月堂のゴーフル

まごころこもった

ご贈答に

地方発送にも好適です



神戸にそだって 70年

風月堂

元町3丁目 TEL 09 2412-5  
さんちかスイーツタウン TEL 09 3455





ヒロタの出来たての  
 シュークリームを  
 あなたのお手もとに!!

# シュークリーム

中 洋菓子の 中

# ヒロタ

元町店 (33)2340    三宮店 (32)1227    さんちか店 (39) 3 4 7 4    秀品店 (23)2312



きものと細貨

# おんがら屋

神戸

西店/三宮センター街・電話3 3-8 8 3 6 (代)  
 東店/三宮センター街・電話3 3-0 6 2 9  
 三宮店/さんちかタウン・電話3 9-4 3 0 3

東京

銀座北店/銀座並木通り・電話573-5 2 9 8 (代)  
 銀座南店/銀座並木通り・電話572-4 8 4 7  
(京阪神銀座タウン)  
 渋谷店/東急本店・電話462-3 4 0 9 (直)  
(5 階和装名産街)  
 日本橋店/東急日本橋店・電話211-0 5 1 1 (代)  
(4 階和装名産街) (内線294)





▶ 岩武照彦氏

★ 神戸っ子対談 ★

# これからは瀬戸内経済時代!!

岩武 照彦

神戸経済同友会代表幹事  
神戸製鋼所常務取締役

石野 成明

石野証券KK社長

★ 神戸と私

石野 岩武さんは神戸にこられてどのくらいになられましたか。

岩武 会社に入ってから八年になります。それで住みつけたことになりましたかな、高等学校時代は京都でしたね。

石野 三高でございますか。

岩武 だから、あまり神戸は詳しくなかったです。

石野 私は逆ですね、先代から神戸でして、大学は京都ですが、高等学校は松本でした。

★ 思いきったことをするのが神戸っ子だ!

石野 神戸の町は山も海も近いし、女の子もきれいし、センスがいいね、常務はその点いかがですか。

岩武 同感ですね。環境がいいし、酒もうまいし、第食べ物がいいですね。料理が多いし、パンがうまいね。

品がいいっていうか、しゃれたものがあります。東京の女の子でも元町へ買物にきますよ。

石野 メーカー側からいまして、新しい製品ができるとまず神戸で売らしたいです。そういう点、神戸っ子の感覚はいいものを持っているでしょうな。

岩武 神戸の人はムードの中に育っているけれども、案外思いついたことをしますね。全国で初めてやったものが多いですね、バイオニヤ精神がありますよ。

原口さんのポートアイランドもそうです。私は、神戸に三つの注文があるのです。山肌が荒れていますね。あれを樹を植えるとか、種を植え付けるとかしてほしいですな。緑のペンキでもいいです。

道路に街路樹がもっとほしいし、都市改造としては、あのバー街を整理することです。三宮は神戸の玄関ですからな。

### ★経済同友会の性格をはっきりさせる

石野 今度常務は経済同友会の代表幹事になられたので、代表幹事としての抱負をうかがいたいのですが、経済同友会の性格を私自身本当につかめないのです。理想的な経済人としての理念を貫くことは、ある意味では非常に尊いけれども、実際的なものがあっていいのではないかとも思っているのです。

岩武 同友会の発足当時は、本当に終戦後の日本経済をどうするか、といった問題での同士の結合がありました。今ではむしろ時事問題に入りすぎていますね。それで私は、会員のフランクな意見を聞きまして、政策中心かそれとも地域開発、社会開発を中心にするか、を考えたか思っているのです。もう一つは、皆さんに集まってきたいて議論などをするのでしょね。

石野 理念的なものも必要なのですけれど、会員にアピールしませんね。しかし同時に、地域開発などを織りまぜることが崇高な理念を生かすことになると思えますが岩武 東京の経済同友会は、いろいろな政策を持ってい

ますね。神戸としては身近かな問題に取組んで行くことが本筋ではないかと思っているんです。

### ★神戸の持味を生かした経済圏・生活圏を

石野 現在、神戸の地盤が沈下している、とよくいわれますが、どういう時点で沈下というのか、考える必要があるのではないか、と思いますね。神戸製鋼や川崎重工にしても、神戸が発祥なのに、現在の神戸を抜けだして日本的、世界的になっていますね。その点、もっと神戸の持味を生かして行くことが大事なことです。大阪の神戸の、という言い方がおかしいので、道路を整備し、神戸としての港の機能を發揮させれば大きなメリットはあるのです。

岩武 確かにそうですね。昭和二五年頃ですか、貿易再開の直後頃、大阪の役所にいたんです。貿易関係の出入が神戸にありましてね。ところが当時は至急電話でも一時間はかかるんです。それで連絡には電車を使いまして。その頃から交通、通信の不便さで神戸は大阪に水をあけられましたね、貿易面では。商社が東京・大阪へ移りましたね、貿易商社のセンターがよそに移ってしまつて。大阪の連中によくいうんですが、関西経済圏といつても大阪のためには困るんです。各地の特色を生かした経済圏なり生活圏にまとめることを考えなければ、と思っているんです。

### ★これからの20年は瀬戸内時代である

石野 今の問題と関連があるのは、国際空港だと思っております。新しく作るとなると、やはり淡路が一番です。ところが、ある所で出た話ですが、これは神戸が主張する問題ではないというんです。空港ができればどうしてもあちこちに公害がおきると思います。そうなると、これはむしろ大阪が関西経済圏を考えてみて、その中で淡路に空港を作ってくれないか、と頼むのが筋ではないか、ともいっていますね。





▶石野成明氏

にもなりますね。

**岩武** 産業界も経済界も又、その他の方面も第二空港は淡路だ、という空気ですね。問題は どうして淡路に行くかです。

**石野** そのためにはぜひとも明石架橋が必要なわけですが、金がかかっても、四国の開発のためには絶対に行るんですからね。

**石野** 橋自体の工費が発表されていましたが、明石架橋はそう高くはないですね。そうなるとメリットを考えれば、私は明石架橋になる公算が非常に強いんじゃないかと思えますね。

**岩武** 近畿経済圏の今後の地位ですね。ヒンターランドを考えれば、中国と四国ではないですか、瀬戸内中心のこれを持たなければ経済圏の地位は上がらないでしょう。今後二〇年間は瀬戸内経済ですよ。

**石野** 瀬戸内経済の要に神戸はなるのだ、と青年会議所でもいっておったんですが。

**岩武** 陸上の方は、東播地区から岡山、福山の方へ工業は発展するでしょうし、四国は北側が開けるでしょう。

東海メガロポリスですか、その西の端の拠点になるのです。商工会議所で聞いたのですが、近畿経済圏の西日本における地位を統計で出しますとね、四国・中国とも近畿に対する依存度が高い。従って近畿経済圏と連絡をつけないと駄目だということ。それに、近畿ことに阪神が拠点になるというのですね。拠点性があるのです。地域開発の問題としては、そういう先のビジョンを持ちながら、当面は交通、通信です。その点で第二空港は必要ですし、橋ももちろんです。十五年とはちょっと長いでしょう。橋ができれば観光対象

**石野** そうです。モニュメントとして美観の対象になりますし、立派な観光資源にもなります。

**岩武** 僕は神戸の経済をこう見てるんですよ。企業の本体から見ますとね、私の方とか、川鉄さんとかはここで大きくなくて全国的に仕事をしている企業ですね。本社を神戸におき、ここが管理センターになっています。しかし、営業センターは神戸にはないです。涉外センターも東京ですわね。その次に、東京に本店があって、ここに支社や営業所を持っているところがあります。出先ですね。それと神戸で生え抜きに育ってこられて企業の基礎を固めている中堅企業は割合多いです。たとえば、酒屋とかゴム関係、また製麻もそうです。この意味で神戸には色々な要素があると思うのです。この中で全体として経済的地位が向上するまで行かないのは、やはり近代的な通信・交通的なものに戦後めぐまれなかったことによると思うのです。今後は西日本の問題もあるので、交通・通信、あるいは情報産業の西の拠点になる、という形

神戸がある種の経済的センターになりえましよう。生産面では神戸はもうできませんね。これは東播とか。

**石野** ええ、鉄鋼所にしてもそうですね。神戸はもう無理です。確かに都市の性格が変わってきましたね。交通機関の発達、通信、情報の変化でね。昔の夢を追いかけているから「地盤沈下」してどうしようもないんだ、という考え方に結びつくのでしようね。

**岩武** この特色なり地位を生かすようにしないといかんでしょうな。

★ 世界にのびる日本の鉄鋼界

**石野** 市民も鉄鋼業に関心をもっている人が多いと思うのですが、いかがですか、鉄鋼業の動きは。

**岩武** 鉄の方は過当競争で設備をたくさん作って困るんじゃないか、とよくいわれるんですがね。我々鉄屋は、誰もそうは思っていないのです。我々としては、ある程度鉄の需要はのびて行く、それでそれに備える設備投資をしないと困ると思うて各社がやっとなります。それが我先にと駆けだすものだから集中しましてね。順序だててやろうと話合っているのですが、うまくいかんもんです。溶鉱炉など今のテンポで行けば一年に二本ぐらいで丁度いいではないか、と社長もいっています。

**石野** 日本全体でですか。今は千トンぐらいの溶鉱炉です。

**岩武** いやいや、千トンどころか一日五千トンです。年に一本作れば、二百万トンぐらいの増産です。だから二本や三本ではいけれど、五本では多すぎるのです。  
**石野** 二本ずつ交代で作っていけば三年ほど遅れるところができますね、三年は大きいですよ。

**岩武** 企業は永久に続きますから、心配ないですよ。

**石野** 一つの製鋼所がユニットとして大きくなりますね。  
**岩武** 鉱炉が四つで八百万トンから千万トンですね。

**石野** 非常に短時間のうちに、工場自体の生産性が低くなるのではないですか。

**岩武** そうですね。古い施設の方のコストは高くなりませんがね。確かに償却は大変ですが、特別償却などの制度もありましたからね。

**石野** 莫大な設備投資と科学技術の急速な進歩との相克が大きなメーカーにとってつらいのではないですか。

**岩武** 現在瀬戸内で三つほど建設しています。あと二つのプランが各社でありますね。完成するのが、七年から十年ですから、完成すれば一億トンを越すでしょう。

**石野** 鉄鉱専用船も非常に大型化していますし、瀬戸内を楽に走れるということが、難しい問題ですね。

**岩武** この次の時代には外海に向けて製鉄所を作ることです。九州の南とか四国の南とか、極端にいえば日本海でもいいんです。ソ連から石炭を買う話がつけばね。

**石野** 原鉱石を運んでくる距離は船が大型化すればあまり問題にならないでしょう。

**岩武** 問題にならないです。陸上距離は問題ですよ。

★ 静かに飲むのが好き

**石野** 常務はお酒を随分あがられますか。

**岩武** 嫌いな方ではないですね。飲む場所は、腰掛ける縄のれんが好きですね。

**石野** お酒でいうとこれは本格派ですね。(笑)

**岩武** 女の子が側におるとめんど臭くてね。バーではアカデミーなんです。東京でも女の子のいないバーを探しています。一軒二軒みつけましたがね。だからバーには評判わるいですよ。(笑) 静かに飲むのが好きですな。

**石野** 麻雀や碁などはどうですか。

**岩武** 若い頃よくやりましたな。僕らの麻雀はあの菊池寛ルールですね。面白かったですよ。ゴルフはハンデイ三六、碁は七、八級かな。

**石野** 僕は免状は三段やけれど、誰も相手にせんからね  
**岩武** 僕は初段もらっているけれど。(笑)

**石野** こっちは苦心三段ですね。(笑)



## 経済ポケット

### ジャーナル



#### ★兵庫県新年度予算案 まとめ

兵庫県の四十三年度予算案がまとまった。予算の重点は青少年の健全育成、交通事故防止対策、公害防止などに置かれ住宅建設や万博関連事業と合わせ積極的な予算となっている。予算案によると一般会計は千六百五十八万円で四十二年度当初比一六・一％の伸び、また特別会計は三百六十四億五千五百二十円で四十二年度当初比三七・七％の大幅な増加。両会計を合わせると総額千五百三十二億二千二百円で、四十二年度当初比二〇・六％増、同現計比八・〇％増となっている。

一般会計の歳入は県税六百九億五千万円、地方譲与税二十二億六千九百万円、地方交付税五十三億五千五百万円、国庫支出金三百二十八億三千万円、県債三十八億八千四百万円、使用料・手数料および負担金などその他百三十九億六千四百万円、県税は四十二年度当初比二・八％増、地方譲与税は

同一四％の伸びを見込んでいるが、地方交付税は四十二年度当初比一三・八％減に押えている。

歳出は消費的経費七百三十六億三千万円（全体の六三・一％）で、四十二年度当初比一六・六％増、うち人件費は五百四十三億二千八百万円で全体の四六・六％を占め、四十二年度当初に比べ一三・四％の伸び、投資的経費は三百二十三億六千八百万円（全体の二七・八％）で四十二年度当初比一六・二％増、公債費は四十一億二千万円で同八・四％増となっている。

#### ★中・高卒職業訓練生に 奨励金

職業訓練所で腕をみがく中、高卒入所生のエンピツやノート代はめんどうみましようーと、兵庫県では四十三年度から「職業訓練奨励金」を実施する。

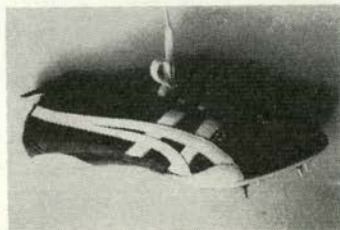
これは神戸、姫路、豊岡の各県立職業訓練所の養成訓練生（中学、高校卒業と同時に入所したもの）だけに支給されるもので、年間

ひとり三千円を現金で手渡す。県では養成訓練生にタダで技術を教えるだけでなくテキストやノート、エンピツなど消耗品の直接経費まで支給して少しでも県内訓練所への入所を促進、ひどく不足している若年労働力の確保を図ろうというねらい。新年度予算に百二十九万円を計上、四百三十人に支給する。

#### ★メキシコ五輪に 新しいクツ

スポーツシューズのトップメーカー「オニツカ」が特殊合成ゴムを敷きつめたタータントラックに適した陸上競技用シューズの新製品を完成、本格生産に取りかかる。従来のものに比べクツ底のビンが円錐形から鋭い切り込みを入れた三角錐形に変わっているのが特徴。

陸上競技のトラックは米国を中心にアンツーカーからタータンに変わりつつあり、メキシコ五輪の競技場もタータンになっている。昨年秋のブレオリンピックに出場した選手から、これまでのビンではトラックに刺さりやすく、ダッシュがきかないとの声が出たため日本陸連の要請もあって同社が研究していた。同社は五輪出場選手には日本オリピック委員会を通じて寄贈することにしている。価格は従来ものより一〇％高の六千一六千五百円。



タータントラック用のシューズ

#### \*KOBEOフィステイ\*



長谷川喜子さん (21)

神鋼ファウドラ―総務課勤務

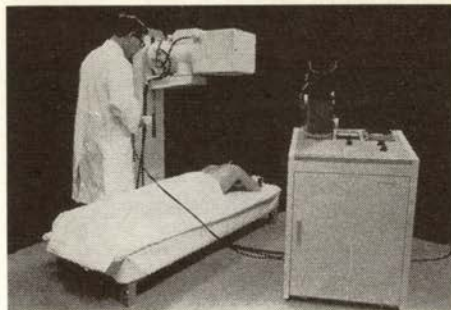
総務課で受付をやって2年。現在は、一人でお客様の応待をこなしているが、社内評は非常に仕事熱心とのこと。コーラス部に入っていて、歌曲を歌うのが何よりも好き。ちなみに好きな歌手は岸洋子。趣味は他に手芸、スポーツではバレーボール、卓球が好きとおっしゃる明るく素直なお嬢さん。明石南高卒

## ■技術ジャーナル■

### サーモグラフィ

諸岡博能

（神戸市企画局調査部）



グラフなどの形で描き出すしくみである。この装置の電気的な働きは体温を発生する赤外線エネルギーの間に一定の関係があることに着目したものである。これは患者の体に直接触れることなく遠隔操作により、摂氏〇・一度の微細な温度差まで識別できる。応用分野としては、ガンの早期発見から胆のう炎、リウマチス、血管炎、やけど、妊娠の早期発見などの診断、心臓など臓器移植後の経過を調べるのに応用される。

× ×

人体の状態を調べる医療用電子機器ではレントゲンや超音波を利用した装置などがよく知られているが、放射線や超音波によると症状によってはかえって人体に有害となる場合がある。これに対しサーモグラフィによる診断は人体に接触することなく、また外部からいっさい刺激を加えず病状を知ることができるのでこれが大きな特徴となっている。

サーモグラフィは精密な体温の分布を明らかにするばかりでなく、体温の分布と病状との関連を科学的に分析することによって急速に医療診断への応用分野を広げている。たとえば、表皮に近いところにてきたガンは人体表面の温度分布を調べるとガンのできてい

る表皮のみが温度が高くなっていることによってガンの早期発見に役立てることができる。

× ×

わが国ではこのたび神戸工業がこの機械を開発した。赤外線から体温を測定し医療へ応用する研究「サーモグラフィ」はいよいよわが国で実用化の第一歩を踏み出したといえる。

このたび、開発された装置は光学的に人体から放射される赤外線を不純物励起型の金・ドーブド・ゲルマニウム型二素子に与え、これをさらに増幅して、ブラウンなど、スポット計器に出力するものである。

このような物体の発生する熱線つまり赤外線を検知する装置には光電的検知器と熱電対などの熱的検知器があったが半導体を使った検知器は波長に対しては選択的な半面、感度が十の二乗ないし十の三乗倍と高性能、高速度で医学用のほかに船舶、航空機の航跡などをはかることが可能である。すでにアメリカではベトナム戦に一部利用されている。一ちなみに、空対空ミサイル・サイドワインダーはこの原理を応用したもので、もともとガラガラ蛇が赤外線探知の生物学的機能を備えていることに着目、開発されたものである。

昭和四十年に第一回の世界的な学会がアメリカで開催された。それはサーモグラフィに関する学会で近代医学の新分野として脚光を浴びた。サーモグラフィとは赤外線体温測定装置といい、人体から発生する赤外線エネルギーを電気エネルギーの強弱に変えてブラウン管や写真の光の濃淡、温度

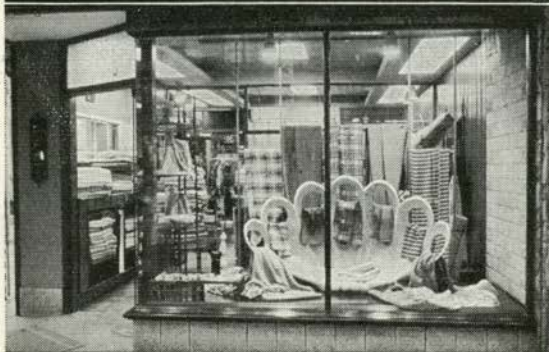




Lady's Shop

*La Mode*

MOTOMACHI KOBE TEL 33 5689



*Akira Beauty Shop*



美容室

**あきら** 西野 明

電話予約制

三宮本通り TEL 33 4461・6458

# コトブキの 生クリームケーキを ご賞味くださいませ

味のきいたフレッシュな生クリームと  
ソフトで 口どけのよいスポンジを  
素適にデザインしました

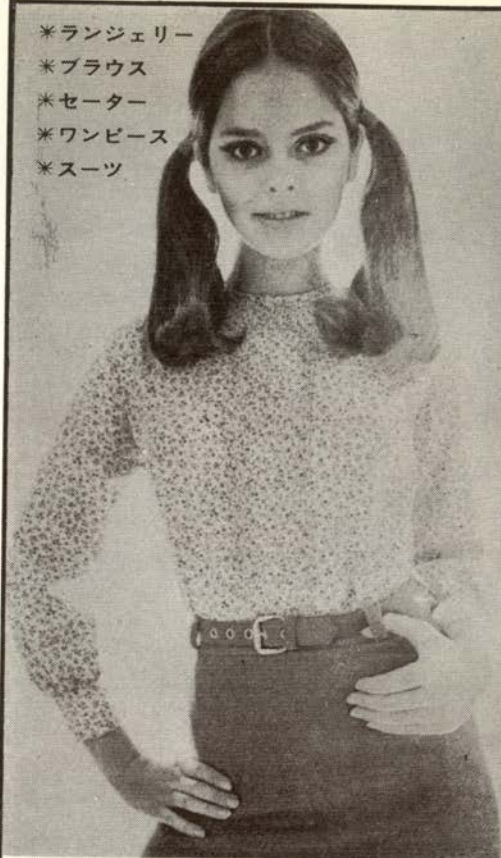
¥ 50 ¥ 80 ¥ 500 ¥ 600



洋菓子の**コトブキ**  
**寿本舗**  
*Kotobuki Confectionery*

神戸市生田区北長狭通1-19・TEL神戸(078)-39-8681

- \*ランジェリー
- \*ブラウス
- \*セーター
- \*ワンピース
- \*スーツ



*SuYa* **スギヤ**

トア・ロード市電大丸電停前  
TEL (33) 3 4 3 6  
六甲店・阪急六甲駅  
TEL (87) 2 7 3 1(呼)



# ★ダイナミック神戸

春 木 一 夫  
え・たかはし・もう

阪東調帯の巻——榎並正一社長をたずねて

## コンベアベルト。神戸から世界へ



▲ 出来上ったコンベアベルトが出荷される。

り笑って、さあ、どうぞと二階を指す。きれいな手だ。しつとりとしめり気のある女性は情が深い、というけれど、そこまでは、見ただけではわからない。

専務さんが出てきて、社長はやむをえぬ用事で、少し遅れると気の毒そうにいう。名刺を見ると、坂本智元。わたしのものの上官だ。急に懐旧の情をもよおした。

うまい紅茶を呑ん

で、下山事件やら鳴尾競輪場放火事件などを話していたら、ドアが開いて、異相の人が現われた。どっしりとして、將軍の風格がある。笑うと、子供のように可愛い社長の榎並正一さんである。さっそく、対談。

「純粹の神戸っ子。大正生れ」

大正生れに気合いが入る。七月三十日以前なら、明治

白い建物である。四角い。阪東調帯という名称から、細長いものを想像してきたのだが、それが錯覚だということが、すぐにわかった。コンベア巻きのベルトのような建物など、あろうはずがない。

「お客様受付」。ただ単に、受付だけでない点が屈折している。奥ゆかしい。刺を通じると、受付嬢がにっこ



▲ 須磨高倉山で活躍するコンベアベルト

生れた。

諏訪山に育って、慶応大学予科、本科六年間の生活を除けば、全部神戸といっぴりよ。

純血だ。毛並みがよい。

「会社はお父さんの榎並充造さんがつくられたのに、阪東調帯というのは変ですね。関東の会社と間違えられませんか」

「以前はよくそんなことがありましたよ。が、今ではどうやら神戸で通ります。阪東というのは、ベルトの発明者が阪東で、この人は呉の海軍工廠で、ベルトの試験中殉職しました。そのため、功績者として、その名を永遠に記念するために、名を残したのでしょうか。そのお蔭で戦後は、外国との取引に、バンドの阪東で、大へん覚えられやすいという利点もあります」

陰徳あれば、陽報あり、というわけか。

「二代目として、この仕事をやりぬこうという決意が学生時代からあったわけですね」

「何の、何の。抵抗を感じていましたよ。別に、何をやるうというあてもなかったんですが、ベルト屋さんだけはいやだったですね。

卒業する年の正月に、川西清兵衛さんや伊藤忠兵衛さんらと、別府へいったんです。前々から、わたし共では

川西、伊藤家と家くるみで、正月に家を外すことになっていたんですな」

その時、今後の方針を問われた。阪東調帯へ入るのだけはイヤだ、と抵抗した。そこは苦勞人の二人。よし、よしとうなづいて、好きなどころへいけと激励。卒業すると、川西清司専務に連れられて、日本毛織の加古川工場へ。よろしくやれといわれ、ここで一年勤務。二年ほど、西出町の店につとめた。そこへ召集。即日帰郷。はずかしくなって、神経衰弱。

「日支事変ぼつ発後二年目のことだから、そりや、格好が悪かったでしょうな」

そのころ、こちらは甲種合格だ。威勢のよさにくらべ即日帰郷の悲哀さ。わかる、わかる。病気になるって当然「うろろろしているうちに、内外ゴムから上海へいってくれないかといわれましてね。遊び半分、戦争見物にいつているうちに、何となく、ゴム業界に引っぱり込まれたというわけですね。ま、そのころ、阪東調帯は朝鮮、満州にも工場を持っておりましたので、そこらをいったり、きたり…」

「というと、サラリーマンは未経験…」

「時代がよかったんでしょう。一人ぐらい、規格はずれの員数外があっても」

アウトサイダーを自任しているが、このおん曹子。ただぶらぶらしてただけではなさそうだ。それは、その後の動きが、これを示す。

「会社の経歴を簡単に」

「親父は穴門の下の南京町で質屋をやっていたんですな明治三十九年に姫路の三十九連隊を除隊したんです。親戚の滝川、岡崎、雀部、川西といったところが、ドラ息子ぶらぶらしては困るといって、阪東式ベルトの技術が売りに出していたのを買って、会社をやりはじめたんです。資本金五万円の合資会社だから、ちゃちなものです。もっともそのころベルトは、新田さんとうちの会社しかなかったわけですが」





▲ 榎並社長 え・たかはし もう

「他の国ではあったんでしようが、日本では鶴甲山が初めてじゃないですか。発案者は原口市長さんです」

功を他人にゆずる。社長らしい奥ゆかしさである。やはり、将軍だ。

「山を海に。実に壮大な男らしい事業ですが、その方式は」

「三つあるんです。土をダンプカーで運ぶ。コンベアで運ぶ。水で泥にして流す。一長一短がありますので、ケース・バイ・ケース

です」

「コンベアベルトで埋め立てしたのはどこどこですか」

「東灘の鶴甲山、須磨の高倉山、シンガポール、鹿児島の埋め立て、その他随分やっていますよ。最近では、オーストラリアのサベージリバー鉱山の開発やアフリカのアンゴラ鉱山の開発にも大活躍です」

「山一つ海へすっぽりなんて、粋な言葉ですね」

「広告してやろうと思って、アメリカの雑誌に注文したんです。すると、Moving Mt. into Sea という、キヤッチフレーズをつくってくれたんです。やはり、あちらのものはすかーっとしていますね」

まだまだ、日本のPRは若いといいたげである。そうだろう。日本でPRの必要性が叫ばれてから、まだ日が浅い。追い越せムードでやってるが、老舗（しにせ）にや、それだけの実績がある。

「サンチカに、『動く歩道』をつくられましたね」

「ステンレスのプレート入りベルトの第一号ですね」

「軌道に乗り出したのは」

「大正二年、日本ではじめてゴムベルト製造機を、イギリスから輸入したころじゃないですか」

「それが今度は、二部から一部上場の銘柄になったわけですね」

躍進また躍進といったところだ。

「ところで不思議に思うんですが、榎並、雀部両家で、社長を交替するというような密約でもあるんですか」

「そんなことはありません。ただ、偶然にそうなっただけですよ。もとは榎並家の稼業だったから、社長職も自由にできましたが、今は事業ですからね。株主さんの意向次第です」

事業という点に力が入る。そりゃそうだろう。株の一部上場ということは、素人だからよくわからないが、会社経営への大衆参加ということが、大きな要素となるらしい。

「山をつぶして海へ。平和的な領土拡張案は、世界で初めてなんですか」

「日本で初めてですか」

「小田急のデパートでもやっていますし、炭鉱では、とくに実用化していますよ」

「ご存知なかったの、といたげである。当方、そこまで博識ではございません。」

「どんなところに、将来使われるんですか」

「特定地区の混雑を、はかすのには、もってこいですな」

「動いている歩道を歩くとね」

「そうそう。一分間に八十メートルを歩くとしますねそこへ、ベルトの三十メートルが加われば、百十メートル約一・五倍の効率になり、はげが早いですよ」

「ところで、話題を変えますが、神戸のよさは」



◀左はオーストラリアのハマスレー鉱山で  
▲右はシンガポールの埋立地に活躍するバンドン・コンベアベルト。



「一言にしていえば、気楽なんですな」

「もう少し具体的に」

「あの、遊び人の支店長がいらしてね。この人は東京からきた人なんです。東京じゃいつ、どこで、人にあうということをはっきりしておかねば、その人にあえないですな。ところが、神戸じゃ、別にどこときめておなくても、たいがいあえるんですよ。それにあう場所をきめても、そこへ会社がひけてからぶらぶら歩きながらいける。途中の情景を楽しみながらね」

「狭いから、いく場所が限定されるからなんですしょうね」

「ちよとど都会としては手ごろなんですしょう。人数も少ないから家族的」

「大阪のバーヤスタンドにいくと、満席でも客がくれば部屋に入れ、立たして待たせる。先客で気の弱いものは、いたたまれなくなって出ますよ……」

「神戸じゃ、新米の客を断わるでしょう。バーの親父でもホステスでも、何というか、何々然とさせませんね。家族的ですよ」

「というと、大分あちこちを……」

「昔馴染が多いのでね。ムーンライト、飛鳥、桂、山小屋など、それに、アカデミーにもよくいきますよ。」

「もつとも、峠を越えたので、昔ほど遊びませんがね」

大変卒直でよろしい。特に、バーの名など挙げるころ好感が持てる。見かけはごつそうに見えたが、真底は神戸の空のように、カラッととして、あけっ放しらしい「好きなタイプの女性は」

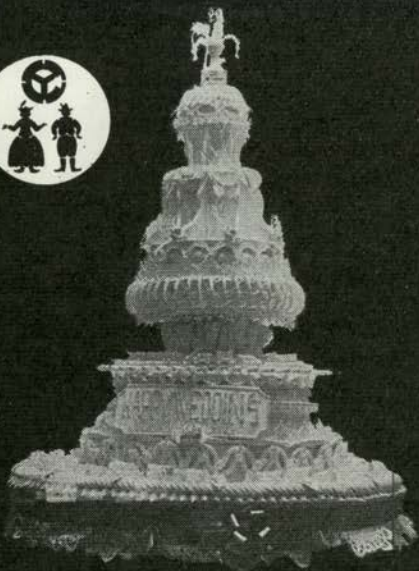
「美人。理屈をいわんのがよろしい」

さすがは将軍。女性の真随をいいえて妙。



晴れの日の

# ウェディングケーキ



北欧の銘菓

# ユーハイム コンフェクト

本社・工場及熊内店/神戸市灘区熊内町1(市立美術館東隣) TEL22-1164  
三宮センター店/神戸三宮センター街(洋菓子・喫茶・バーラー) TEL33-2421  
生田店/神戸三宮生田筋(糖上喫茶室) TEL33-7343・0156  
さんちか店/神戸三宮地下街スイーツタウン TEL39-3558

春先の雪山に……

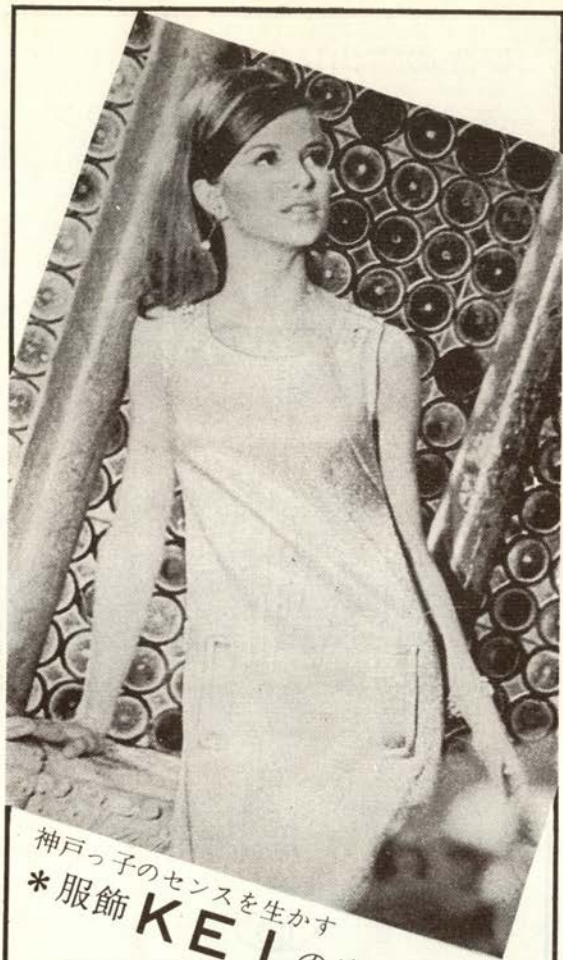
〈新しい仲間〉 スキーグラス



## 神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎1212代表

三宮店・さんちかタウン ☎1874-5



神戸っ子のセンスを生かす  
\*服飾 **KEI** の店

神戸・大丸前 服部宝生眼鏡店 2F (33) 7550  
大阪・堂島船大工町 日昭ビル 1F (344) 6312-3

陽春のやわらかな  
日射しにはえる  
マキシンの帽子



マキシンの帽子のおもとめは  
全国有名百貨店でどうぞ!

**マキシ**

神戸・トアロード 東京・銀座3-2  
TEL(078)33-6711-3 TEL(03)535-5041